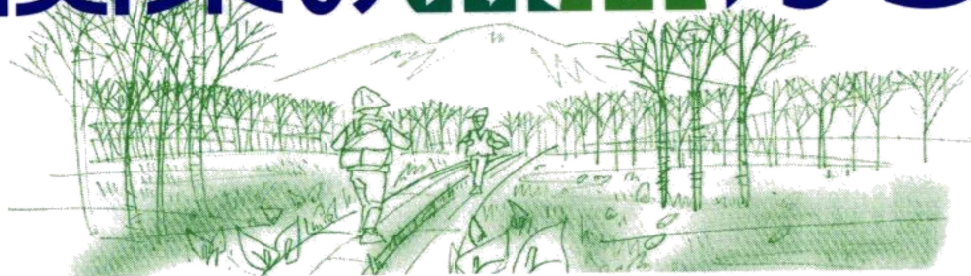


平成27年12月18日

第138号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「多雪地域におけるコンテナ苗植栽試験（グライド測定機器設置）」  
（新潟県湯沢町）

（撮影者：中越森林管理署）

民有林と協力して行う森林施業の推進について

～「森林整備推進協定」及び「森林資源循環利用推進協定」の締結～

森林整備部 技術普及課



# 民有林と協力して行う森林施業の推進について

## 「森林整備推進協定」及び「森林資源循環利用推進協定」の締結

森林整備部 技術普及課

国有林野事業では、民有林と国有林が隣接する地域の森林において、森林管理署等と民有林所有者等が、森林整備の推進に関する協定を締結するとともに、協定区域内で森林共同施業団地を設定し、双方が連携して路網整備や間伐、木材の協調出荷等に取り組んでいます。

関東森林管理局管内では、平成26年度末までに13件の森林整備推進協定（協定期間を満了したものは除く）を締結し、協定区域内で設定した森林共同施業団地において、それぞれの実施計画に基づき、協定者間で連携して取組を進めています。



協定調印式（南魚沼市）

理署の4者で「南魚沼市山口地域森林整備推進協定」を締結し、私有林・市行造林・国有林からなる森林共同施業団地を設定しました。

て整備することとしています。今後、民有林が連携して路網整備や効率的な森林施業に取り組むことにより、森林の多面的機能の高度発揮や資源の循環利用を促進し、当地域の森林・林業の再生に貢献していきます。



民有林協定箇所（南魚沼市）

また、群馬森林管理署においては、地域の森林資源を活用してエネルギー地産地消を実現するため、「森林資源循環利用推進協定」を締結しました。

これらの取組についてご紹介しました。

### 【中越森林管理署】南魚沼市山口地域森林整備推進協定の締結

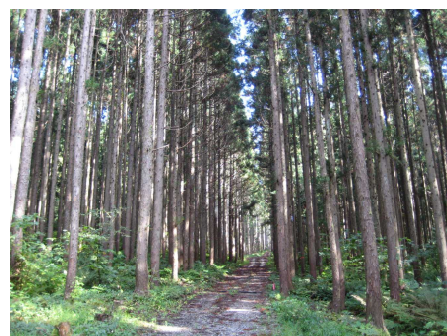
9月30日に南魚沼市、南魚沼森林組合、株式会社戸田組、中越森林管

この森林共同施業団地は、336畝（民有林65畝、国有林271畝）で、効率的な作業システムを考慮した森林作業道を作設するとともに、民有林では間伐、国有林では皆伐を実施するなどして木材の安定的な供給と利用促進に努めていくこととしています。

また、八海神社に隣接する箇所は、鎮守の森として地元住民が後世に受け継ぐための森林として整備することとしています。

### 【下越森林管理署】阿賀地域民連携森林整備推進協定の締結

10月28日に東蒲原郡森林組合、公益社団法人新潟県農林公社、阿賀町、新潟県新潟地域振興局津川地区振興事務所、下越森林管理署の5者で「阿賀地域民連携森林整備推進協定」を締結しました。



民有林協定箇所（阿賀町）

協定区域は、阿賀町全域の森林で、森林共同施業団地は、新谷・細越団地と中ノ沢団地の2箇所設定しました。

新谷・細越団地は、101畝（民有林65畝、国有林36畝）で、民有林では間伐、国有林では複層伐等を実施することとしています。



協定調印式（阿賀町）



協定調印式（上野村）

### 【群馬森林管理署】上野村森林資源循環利用推進協定の締結

10月23日に群馬県上野村と群馬森林管理署の間で「上野村森林資源循環利用推進協定」を締結しました。この協定は、上野村が目指す「持続する村づくり」の根幹を担うエネルギーの地産地消を実現するため、

中ノ沢団地は、66畝（民有林13畝、国有林53畝）で、民有林・国有林ともに間伐を主体に森林整備を実施することとしています。阿賀野川流域に位置する市町村の中でも特に豊富な森林資源を有する阿賀町において、このような取組を進めることにより、当流域の林業・木材産業の活性化のみならず、広域にわたる地域振興にもつながるものと期待されます。

その資材の安定的・持続的供給の方策について、民有林と国有林が協働して取り組むことにより地域振興を図ることを目的としています。

協定区域は、759畝（民有林57畝、国有林702畝）で、区域内の国有林のうち広葉樹林の一部について、バイオマス

発電事業のペレット用資材として供給していくこととしてしています。

伐採後は、根株から発生した芽（ぼう芽）により更新を図り、

概ね25年サイクルで伐採・更新を繰り返すことで、持続的なエネルギー供給が可能となります。

また、この地域は急峻な箇所が多く、木材の搬出は架線集材が主体となるため、架線技術者の育成に努めています。

技能研修を国林の施設として実施することとしています。

### 関東森林管理局管内における森林整備推進協定等の締結状況（平成27年11月末現在）

#### 1 森林整備推進協定

No.	県名	署等名	協定の名称	森林共同施業団地面積(ha)			協定締結年度
				国有林	民有林	合計	
1	静岡県	伊豆署	伊豆地域森林整備推進協定	156	402	558	平成22年9月
2	福島県	福島署	笹森山地区森林整備推進協定	583	1,220	1,803	平成23年2月
3	福島県	白河支署	古殿地域森林整備推進協定	33	113	146	平成23年2月
4	静岡県	静岡署	富士山西麓地域森林整備推進協定	3,330	603	3,933	平成24年2月
5	群馬県	利根沼田署	川場村溝又入地区森林整備推進協定	205	214	419	平成24年10月
6	新潟県	村上支署	村上市笹平地区森林整備推進協定	313	206	519	平成25年2月
7	山梨県	山梨所	身延・南部地域森林整備推進協定	416	537	953	平成25年3月
8	新潟県	中越署	湯沢町森林整備推進協定	87	16	103	平成26年3月
9	群馬県	吾妻署	四万駒岩地区森林整備推進協定	138	73	211	平成26年3月
10	福島県	福島署	郡山市竹ノ内地区森林整備推進協定	1,008	158	1,166	平成27年2月
11	新潟県	下越署	二王子森林整備推進協定	84	55	139	平成27年2月
12	新潟県	村上支署	関川村内須川地区森林整備推進協定	285	213	498	平成27年3月
13	群馬県	吾妻署	大沢上郷地区森林整備推進協定	81	25	106	平成27年3月
14	新潟県	中越署	南魚沼市山口地域森林整備推進協定	271	65	336	平成27年9月
15	新潟県	下越署	阿賀地域民国連携森林整備推進協定	89	78	167	平成27年10月
	計			7,079	3,978	11,057	

#### 2 森林資源循環利用推進協定

No.	県名	署等名	協定の名称	面積(ha)			協定締結年度
				国有林	民有林	合計	
1	群馬県	群馬署	上野村森林資源循環利用推進協定	702	57	759	平成27年10月
	計			702	57	759	

※ 水色の網掛けは、本年度に協定を締結したもの

### 今月の表紙

### 多雪地域におけるコンテナ苗植栽試験

新潟県内の多雪地域においても収益性を確保するため低コスト造林技術の確立が緊急の課題となっています。

その一方策としてコンテナ苗の植栽の可能性を調査・検討を行うため新潟県、新潟県森林研究所と共同で新潟県湯沢町の日白山国有林を活用し、苗木の生育状況、積雪地域で苗木の生育に影響を与える斜面の下方向に積雪が苗木を引っ張る現象であるグライド（雪の滑る距離）の測定等の実証試験を今年度より実施しています。





## 「国有林モニター会議」及び「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」の開催

総務企画部 企画調整課

林野庁では、一般公募による国有林モニターとの意見交換会の実施や、国有林野が所在する地域の市町村長との会議等を通じて、国有林を開かれた「国民の森林」として管理経営するための意見聴取を行っています。

この秋、関東森林管理局で開催した国有林モニター会議と国有林野等所在市町村長有志連絡協議会についてご紹介します。

### 【国有林モニター会議】

関東森林管理局では、70名の国有林モニターの皆様にご報告や国有林等に関する資料を毎月お送りするとともに毎年1回現地検討会を開催し、その上で国有林モニター会議やアンケートの実施によりご意見を聴取しています。

今年度は、9月30日(水)に9名の国有林モニターにご参加いただき、群馬県みなかみ町において、現地検討会と国有林モニター会議を開催しました。

当日は、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目指し、関東森林

管理局と(公財)日本自然保護協会及び地域住民の三者が協働で取り組んでいる「赤谷プロジェクト」の現地視察を行うとともに、最近の森林・林業の課題等についての説明や意見交換を行いました。



国有林モニター会議での意見交換

国有林モニターの方々からは、「赤谷プロジェクトの取組を他の地域にも展開していくべき」「赤谷プロジェクトに若者や女性がもっと参加するとよい」「林業が生業として成り立つような構造改革が必要」「人材育成や新規採用への支援が弱

いのではないか」「バイオマスなどに間伐材を有効利用し、雇用拡大にもつなげるべき」といったご意見をいただきました。

### 【国有林野等所在市町村長有志連絡協議会】

関東森林管理局では、国有林野が所在する地域の市町村長との会議を管内の各地で開催するとともに、各地域の代表市町村長の参加による「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を年一回開催しています。



農林水産省三番町共用会議所での協議会

今年度は、11月20日(金)に12地区の代表市町村長等にご臨席いただくとともに、林野庁本庁からは小坂業務課長及び岡村水源地治山対策室長、関東森林管理局からは志田局長、上野次長ほか関係者が出席し、東京都千代田区の農林水産省三番町共用会議所を会場に活発な議論を行いました。

会議の冒頭、志田局長から「森林共同施業団地等の民有林と連携した取組を一層推進していく」旨の挨拶があり、その後、林野庁からは「平成27年度国有林野事業主要取組事項」の紹介や最近の森林・林業を取り巻く情勢等についての説明が行われました。

市町村長等との意見交換では、深刻化している鳥獣被害への対策や、森林整備や治山事業の一層の推進等についての意見や要望があり、活発な議論が交わされました。

関東森林管理局では、こうした会議やアンケートの実施等を通じていただいたご意見・ご要望を生かしながら、自治体等の関係者とも連携し、開かれた「国民の森林」としての国有林の管理経営に努めてまいります。

# 赤谷の森から

平成27年度 関東森林管理局  
森林・林業技術交流発表会 予告編

赤谷森林ふれあい推進センター  
(以下「赤谷センター」という。)  
では、今年度2つの発表を予定しています。概要は以下のとおりです。

## ①ニホンジカ誘引試験について

赤谷センターでは、昨年度の業務研究発表で、赤谷の森にニホンジカが侵入・繁殖していること、植生への摂食状況などから現在は低密度と考えられる一方で、今後、近い将来にニホンジカが増加し森林生態系への悪影響が心配され、地域や幅広い



試験地のヘイクューブ付近で撮影されたメスジカ



試験地の鉢塩付近で撮影されたメスジカ

関係者と連携しながら対策を検討している赤谷プロジェクトの活動について発表しました。

ニホンジカが低密度である時の個体数管理手法は、進入初期段階の場所と、個体数管理の実施によって高密度から低密度になった場所での管理手法として全国のケーススタディになると期待されます。

低密度下においては、ニホンジカが集まりやすいホットスポットを見つけ、ホットスポットに出没するニホンジカを確実に効率よく安全に捕獲することが求められます。

現在、赤谷センターでは、低密度下における個体数管理手法の確立に向けて、群馬県林業試験場の協力を得て、赤谷の森で捕獲を前提とした誘引試験に取り組んでおり、その成果を今年度の交流発表会へ発表することになっています。

## ②地域とつながる国有林

赤谷プロジェクトでは、国有林「赤谷の森」1万ヘクタールを舞台に、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」の取組を推進しています。これは、自然環境を損なうことなく多くの恵みを得ること、

「より持続力をもつ、人の社会」を作るための「人と自然との新しい関係」を見つけ出し、選択し、実践する取組です。

赤谷センターでは、この目標の達成に向けた取組の一つとして、森と里（人の活動の場）と人、そして人と人をつなげる取組を実施しています。

取組は、さまざまな組織や人と連携していますが、取組の関係者が増えるほど、アイデアやできることが



「森と里と人をつなげる」をテーマに、地域の観光協会が主催する「CoCoira」へのプログラム提供



赤谷プロジェクトによる企画「赤谷の森まつり」を町や地域などと連携して開催



地域のNPOが主催する「森のようちえん」へのプログラム提供

増え、また、地域と赤谷プロジェクト（国有林）がつながっていく、みんなが主役でそれぞれが順番を見つけて進められる取組となっています。その取組の内容や連携の実際などについて今年度の交流発表会で発表します。



# 森づくり最前線

下越森林管理署村上支署 関谷森林事務所 森林官 新井聡祐

関谷森林事務所は、新潟県岩船郡関川村に所在し、関川村の中央部を流れる荒川の左岸の国有林約11000畝（村内森林の70・9割）を管理しています。

関川村には、江戸時代に建てられ国指定重要文化財にも指定されている「渡邊邸」や「佐藤邸」、毎年8月下旬に実施される「大（たい）したもん蛇（じゃ）まつり」（竹とワラで作られた82・8畝の蛇はギネス世界一認定）には多くの観光客が訪れています。



国の重要文化財「渡邊邸」

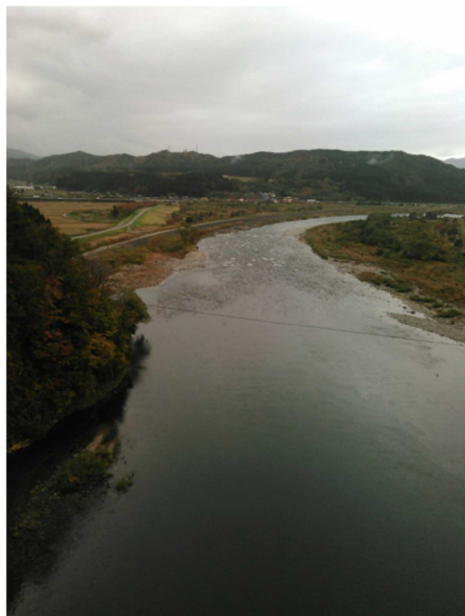
また、荒川は平成15年から平成17年まで、河川水質調査ランキングで3年連続1位に輝き、「平成の名水百選」に認定された清流として、夏は鮎釣り、秋から冬にかけては鮭釣



ギネス世界一82・8mの蛇

りができ、全国から太公望が訪れる河川です。

一方、関川村は森林率が87割と高く、昔から森林との関わりが深い地域であり、中でも山形県境に隣接する飯豊連峰は、豪雪地帯特有のブナ



村の中心部を流れる「荒川」

となつています。また、全国で騒がれているナラ枯れや松枯れ問題等も管内で確認されており、今後の対策等も重要な業務になってくると感じています。

を中心とした広葉樹林が広がり、磐梯朝日国立公園にも指定されており、代表的な木差岳（えぶりさだけ・標高1636畝）、立烏帽子（たてえぼし・標高約680畝）など、四季折々の木々を見ながら登山を楽しむことができます。

それから、荒川をはさんで高温豊富な湯量を誇る「鷹の巣温泉」「高瀬温泉」「湯沢温泉」「雲母温泉」の四つの温泉街と日帰温泉「桂の関温泉」があり、近県からの観光客も多く、冬のスキー客も含め一年を通して楽しむことができます。

当事務所の業務は、国有林と民有地の境界管理、収穫、造林等の調査が主な仕事です。現在は地元の元職員の方々を非常勤職員として雇用しながら業務にあたっており、いずれの方々も高齢になってきているため、今後、作業員の新たな雇用や技術継承などが悩みの種となつています。



飯豊連峰

今年の4月に初めての新潟県勤務となり、右も左も分からない状態では任した私ですが、支署、地域の方々、隣接の先輩森林官からいろいろ助言をいただき、早いもので半年が過ぎました。まだまだ頼りない私ですが、地域や代々の森林官等により手入れされてきた森林を、より良く次世代につなげられるよう精進していききたいと思っています。

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 230-1393